

1章 策定にあたって

1 策定の背景と趣旨

本市では、行政運営における最上位計画である第5次蒲郡市総合計画(以下、「総合計画」という。)に掲げる将来都市像「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち～君が愛する蒲郡～」を目指しまちづくりに取り組んでいます。総合計画において「行政のデジタル化」として、国の定める「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」に基づき内部方針を定め、行政手続のオンライン化や ICT 技術を活用した業務効率化に取り組んできました。

一方、社会においては、デジタル技術の発達・普及が急激に進み多くの人や事業者がデジタル技術を活用することが日常となりました。このような中、行政のデジタル化にとどまらず、まちづくり全体において多様化する社会課題やニーズに対して単にデジタル技術を取り入れるのではなく、既存の制度・組織・ものの在り方を見直し新たな価値やサービスを生み出していく DX への期待が高まっています。

国においても、令和2年12月に閣議決定した「自治体 DX 推進計画」では情報システムの標準化、行政手続のオンライン化等について自治体が重点的に取り組むべき事項について主に定めており、デジタル技術を活用した魅力ある地域づくりである「地域社会のデジタル化」については「あわせて取り組むべき事項」として記載するに留まっていました。しかし、その後策定された「デジタル田園都市国家構想基本方針(令和4年6月7日閣議決定)」や「デジタル社会の実現に向けた重点計画(令和5年6月9日閣議決定)」においては、国や地方公共団体、民間事業者などの関係者が連携してデジタル技術を活用することによって暮らしや産業など様々な分野における地域課題の解決を目指す方針や支援策などが記載されるようになりました。**さらに、同計画は官民データ活用基本法に基づく官民データ活用推進計画としても定義されており、多様で質が高く十分な量のデータを簡単かつ安全に信頼して活用できる環境づくりの重要性を説くとともに、地方自治体におけるデータ連携基盤等の整備を支援して方針が示されました。**

このように、DX の動きは行政手続をはじめとする行政のデジタル化の範囲を超えて、まちづくりのあらゆる分野の取組において必要とされています。

そこで本市は、デジタル技術を活用することによって地域課題の解決を目指す「DX によるまちづくり」を様々な主体と共同で取り組むため、本市のDX推進に対する基本的な考え方を示す「蒲郡市まちづくりDX基本方針」を策定します。

コメントの追加 [蒲郡市1]: 本方針を「官民データ活用推進計画」として位置づけを行うため、前提となる国における動向についても追記を行いました。

2 方針の位置づけ

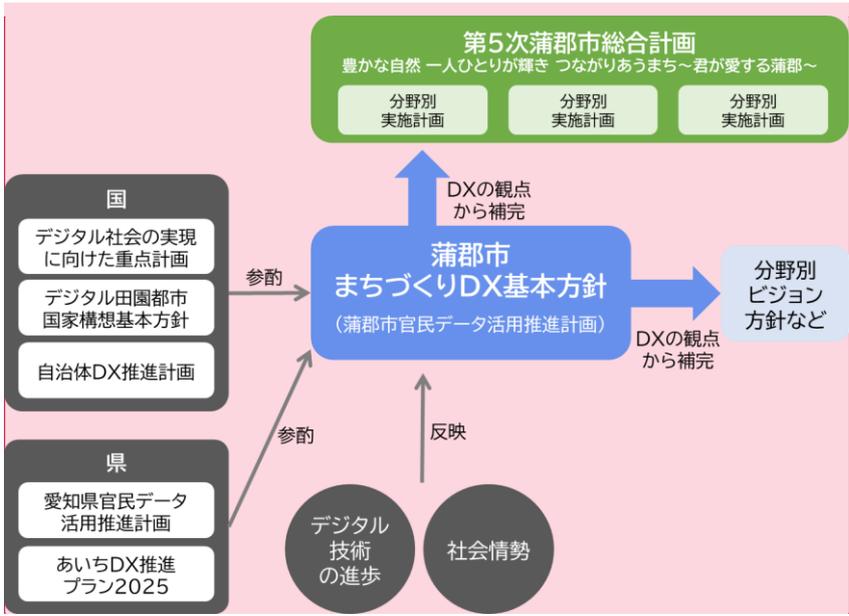
本市では、総合計画の推進に向け、**総合計画に基づく実施計画**を定めているほか、各分野において市民や民間事業者等の意見を取り入れたビジョン等を定めています。

コメントの追加 [蒲郡市2]: 補足文言を追加しました。

本方針は、行政分野におけるデジタル活用(行政のデジタル化)だけでなく、まちづくりにおける各分野の計画及びビジョンの推進をDXの観点から補完するものです。**また、本方針は、官民データ活用推進基本法に規定する官民データ活用推進基本計画として位置付けます。**

コメントの追加 [蒲郡市3]: 官民データ活用推進基本計画として位置付ける旨を追記しました。
※官民データ活用推進基本計画とは、官民データの適正かつ効果的な活用のために国及び県が策定するもので、市町村による策定については努力義務が課されています。市町村版官民データ活用推進基本計画の策定にあたっては、国の示す以下基本方針を参考に、地域の実情に合わせて方針を記載していくよう求められています。
【基本的な方針に係る5つの柱】
・ 手続における情報通信技術の利用等
・ 官民データの容易な利用等
・ 個人番号カードの普及及び活用
・ 利用の機会等の格差の是正
・ 情報システムに係る規格の整備及び互換性の確保等
本方針は、市町村版官民データ活用推進基本計画として必要とされる内容を充足していると判断されますので、当該計画として位置付けるものです。

なお、国及び県の関連計画を参酌し整合を図るとともに、デジタル技術の進歩や社会情勢に応じて適宜見直しを行います。



コメントの追加 [蒲郡市4]: 図の修正

2章 まちづくりDX基本方針

1 基本理念

(1) まちづくりDXの定義

まちづくりDXとは、「基盤となるデータ整備やデジタル技術の活用を進め、まちづくりの在り方を変革することで都市における新たな価値創出又は課題解決を図ること」です。デジタル技術やデータの活用を手段として、まちづくりのあらゆる分野において新たな価値の創出や地域課題の解決を目指していきます。

(2) 基本理念、取組目標、取組指針

まちづくりDXは行政だけでなく民間事業者、団体、教育機関など様々な主体と共同で取り組んでいく必要があります。まちづくりDXに関わる全ての人が同じ方向を見据えて取組を進めていくために、Mission(基本理念)、Vision(取組目標)、Value(取組指針)を設定します。

Mission(基本理念)

まちづくりDXの基本理念を「あらゆる分野で人々がつながり、常識にとらわれない新たな価値を見出し、市民一人ひとりが豊かさを実感できるまちづくりを目指して」としました。

Vision(取組目標)

基本理念を実現するために達成すべき目標を「デジタル技術とデータの活用を推進し、誰もが豊かさを実感できる地域社会の実現」としました。

Value(取組指針)

まちづくりDXに関する取組を推進するうえで、まちづくりDXに関わる全ての人が遵守すべき取組指針を6つ決めました。

- ① 多様な幸せを考えて行動しりん！
- ② 目的と手段を取り違えてはいかん
- ③ みんなで協力し、蒲郡市を盛り上げていこまい！
- ④ 失敗を恐れず、未来へチャレンジしつづけまい！
- ⑤ 蒲郡市の意識をかえてこまい！
- ⑥ ~~誰一人取り残されんDX!~~

コメントの追加 [蒲郡市5]: SDGsの理念の表記の仕方について、
国が「誰一人取り残さない」から
「誰一人取り残されない」に変更している背景を
踏まえて変更しました。

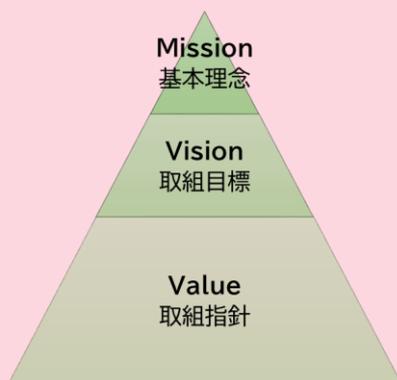
誰一人取り残さんDX!
→誰一人取り残されんDX!

資料5 蒲郡市まちづくり DX 基本方針 12/4 会議からの変更箇所
(変更ページのみ抜粋)

旧 方針ページ：5

また、これらを総合して、取組全体のキャッチコピーを「未来、広がる、進みだす、DX 蒲郡」としました。

～未来 広がる、進みだす、DX蒲郡～



Mission(基本理念)

あらゆる分野で人々がつながり、
常識にとらわれない新たな価値を見出し、
市民一人ひとりが豊かさを実感できる
まちづくりを目指して

Vision(取組目標)

デジタル技術とデータの活用を推進し、誰もが豊かさ
を実感できる地域社会の実現

Value(取組指針)

1. 多様な幸せを考えて行動しりん！
2. 目的と手段を取り違えてはいかん
3. みんなで協力し、蒲郡市を盛り上げていこまい！
4. 失敗を恐れず、未来へチャレンジしつづけまい！
5. 蒲郡市の意識をかえてこまい！
6. 誰一人取り残されんDX!

コメントの追加 [蒲郡市6]: 図の修正

修正箇所: Value(取組指針)6.

誰一人取り残さんDX!

→誰一人取り残されんDX!

(2) 交通の DX

現状と課題

- ア 市内の主な移動は自家用車がメインの交通手段となっており、子どもや高齢者が安心して移動することができず、交通難民化に繋がる懸念
- イ 市内の公共交通は名鉄バスと市内6路線のコミュニティバスが運行中であるが、相互接続による乗り継ぎが課題であり、今後、空白地域の解消を進めながら交通ネットワーク網を形成する必要がある。
- ウ 観光繁忙期には市外からの流入道路が混雑し、それに伴って周辺の幹線道路も渋滞している。

想定される取組の例

- ア バス情報フォーマット(GTFS)を活用した公共交通サービスの見える化
- イ 自動運転、MaaS¹、スマートシティ、SDGs などの公共交通を取り巻く社会・技術変化への対応
- ウ **デジタル技術による効率的なコミュニティバスの利用実態の把握**
- エ モビリティサービスの**検索・予約・決済等**をワンストップで利用できる環境の構築
(例)デジタル交通サービス「のりまっし金沢」



出典：金沢市ウェブサイト
<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kotsuseisakuka/gyomuannai/1/1/18235.html>

- オ 各モビリティサービスから取得できるデータ、オープンデータや交通量等のデータを活用した交通事故防止、渋滞緩和に向けた施策の検討

(3) 防災のDX

現状と課題

- ア 蒲郡市内は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており地震による被害が想定されているほか、近年の異常気象による風水害への懸念も高まっている。
- イ 災害に関する情報は、メール配信(安心ひろメール)、LINE、X(旧Twitter)等の SNS 及び Yahoo! 防災速報で発信しているが、一目でリアルタイムかつ多くの災害情報が分かるような情報発信の環境が不足している。

想定される取組の例

- ア 雨量、水位などの各種気象データや防災情報を集約した防災ダッシュボードの作成・公開により情報収集及び発信手段を一元化できる仕組みの構築
- イ 既存のハザードマップにおいて各種災害が想定されるエリアを市民がインターネット上で閲覧できるよう、公開型 GIS を整備



出典：宇和島市ウェブサイト <https://www.city.uwajima.ehime.jp/soshiki/5/datenavi-bousai.html>

- ウ 各種気象データや災害データ、民間事業者の保有する災害データを活用したより精度の高い防災情報の提供

コメントの追加 [蒲郡市7]: 軽微な文言の修正

コメントの追加 [蒲郡市8]: 今後の予定を踏まえて具体的に表記しました。

3章 実現に向けて

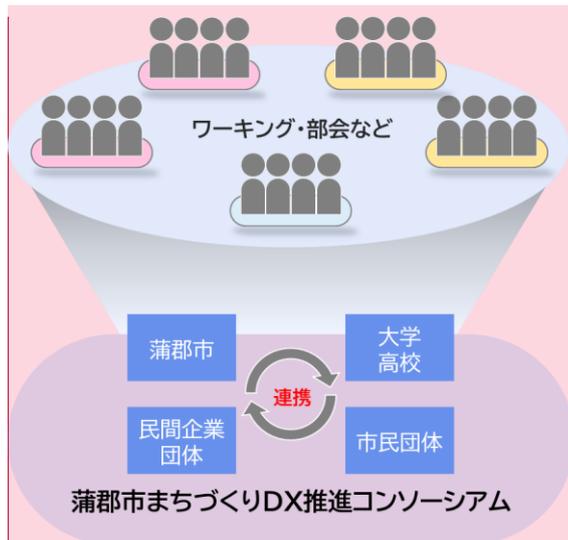
1 推進体制

産学官民の多様な主体との連携によるまちづくりDXを推進するため、「蒲郡市まちづくりDX推進コンソーシアム(以下、「コンソーシアム」という。)」を設立します。

コンソーシアムには先述した取組分野における代表的な企業・団体のほか、教育機関、ICT企業等が参画し、産学官民の垣根を超えて地域課題の整理、課題解決に向けた取組の実証、社会実装に向けた総合調整を行います。また、企業・団体等によるまちづくりDXの取り組みを支援するための枠組みについても検討を行います。

コンソーシアムの構成員は、地域課題に応じて互いの得意分野を活かし相互連携して課題解決に取り組みます。必要に応じて課題ごとにワーキンググループを設け、個別の取組を進めます。

<体制イメージ>



コメントの追加 [蒲郡市9]: 行政が主導する取組だけでなく、民間主導による取組をコンソーシアムとして支援・共有していくことの必要性を踏まえ、追記しました。

コメントの追加 [蒲郡市10]: ワーキンググループのイメージが伝わるような図に変更

2 進め方

次のステップに沿ってまちづくりDXを推進します。

ステップ1 課題の整理と取組の実証

コンソーシアムにおいて**官民対話の場を設け**各取組分野における課題を整理し、課題解決に向けたデジタル技術やスタートアップとのマッチングによる取組検討・実証を行います。実証期間にサービス提供上の課題を洗い出し、取組から得られるデータの検証も併せて実施します。

メントの追加 [蒲郡市11]: 委員からのご意見・ご提案を踏まえ、官民対話の場を設けることを明記、スタートアップ企業と協創について追記しました。

ステップ2 サービスの社会実装

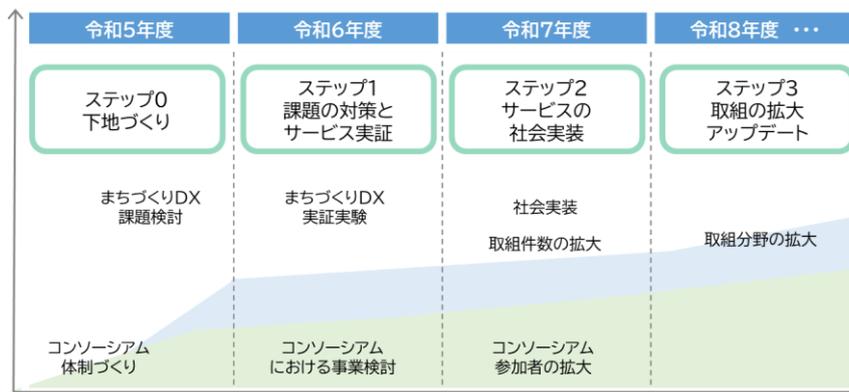
ステップ1での実証の結果からサービスの社会実装を進めます。また、新たな課題の整理・取組検討(ステップ1)も併せて進め、取組件数を増やします。

同時に、コンソーシアムではまちづくりDXにおける取組分野の拡大も視野に入れて参加者の増加を図ります。

ステップ3 取組の拡大・アップデート

ステップ2で実装した取組の自走・継続に向けた検討を進めるとともに、実証・実装した各サービスによって取得したデータを活用した新規の取組及びビジネスの創出について検討します。合わせてデータの活用に関するプロセスやルールを整備・公開し、コンソーシアム参加者の増加を図ります。また、取組件数及び取組分野についても適宜拡大していきます。

<まちづくりDX進め方のイメージ>



資料5 蒲郡市まちづくり DX 基本方針 12/4 会議からの変更箇所
(変更ページのみ抜粋)

¹ MaaS(マース:Mobility as a Service)

地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。

※国土交通省「日本版 Maas の推進」ウェブサイトから引用
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/japanmaas/promotion/>